

ハラスメント防止委員会企画シンポジウム

アカデミック・ハラスメントの構造

—指導？ ハラスメント？—

話題提供：北仲千里#（広島大学）

話題提供：横山美栄子#（広島大学）

指定討論：金子雅臣#（職場のハラスメント研究所）

司会：進藤聡彦（放送大学）

キーワード：教育の質，研究組織，介入モデル

【企画趣旨】

日本教育心理学会では、他の学会に先駆けて委員会を設け、学会でのハラスメント防止に取り組んできた。その主要な活動の1つにハラスメント予防のための啓発があり、その一環として毎年の総会で、ハラスメント防止委員会企画の講演会、シンポジウムを開催してきた。講演会、シンポジウムの企画にあたっては、面接委員を交えた情報交換会や委員会の開催を通して、その時々で何が求められているかについて意見が交わされ、内容が決定される。このような過程を経て開かれる講演会、シンポジウムも回を重ねて今回で10回目になる。

10回といえば1つの節目であり、改めてハラスメントについて俯瞰的かつ体系的にハラスメントの問題を眺めてみることも大切であろうということから、アカデミック・ハラスメントを専門に研究され、アカデミック・ハラスメントについての書籍として高い評価を受けている『アカデミック・ハラスメントの解決—大学の常識を問い直す』（寿郎社）の著者である広島大学ハラスメント相談室の北仲千里氏と横山美栄子氏を話題提供者としてお迎えし、アカデミック・ハラスメントについて学ぶこととした。

今回のシンポジウムでは、大学でのハラスメントでしばしば問題になるその行為は指導にあたるのか、ハラスメントなのかという問題を含み、北仲氏からはアカデミック・ハラスメントを生む組織の体制（システム）について、横山氏からはアカデミック・ハラスメントが起きたときに、解決に向けてどう対応したらいいのかについて議論を展開していただく。また、指定討論者として本委員会の専門委員の金子雅臣氏（職場のハラスメント研究所）にご登壇いただく。